

## 軟式野球 実施要項

### 1. 日 時

2022（令和4）年11月12日（土）～14日（月）

### 2. 会 場

ネッツ多摩昭島スタジアム、江戸川区球場、奥戸野球場

### 3. 主 管

公益財団法人東京都軟式野球連盟

### 4. チーム編成

監督1名。選手20名以内で構成し、**各都道府県選手団からの出場可能なチーム数には制限を設けない**。なお、コーチ、マネージャー、スコアラー、トレーナー等（有資格者）を1名ずつ別途に加えることができる。主将は選手とする。また、監督、コーチ、マネージャー、スコアラー、トレーナー等（有資格者）も選手を兼ねることができる。選手として兼ねる場合は、選手数はそれも含めて20名以内とする。

### 5. 参加資格

- （1）本大会の参加資格は、下記の通りとする。但し各都道府県選手団役員（団長、副団長、総監督・総務）、監督、コーチ、マネージャーはこの限りではない。
- ①1980（昭和55）年4月2日から2007（平成19）年4月1日までに出生した者。
  - ②原則、2021（令和3）年5月1日からひきつづき当該都道府県に居住、または在勤・在学する者。
  - ③全日制高等学校の生徒は参加対象としない。
  - ④定時制または通信制高等学校、高等専門学校、各種学校の生徒は一般青年として参加できる。
- （2）**日本青年団協議会に加盟する都道府県青年団組織または各都道府県の大会窓口からの選出または推薦を受けた者。**
- （3）参加者は医師の健康診断を受け、健康であることが証明された者とする。
- （4）国内外で職業競技者（演技者・技術者）としての活動実績を有する者は本大会に参加できない。
- （5）全日本大学軟式野球協会に加盟する者は本大会に参加できない。
- （6）不正選手が参加していることが相手チーム、大会本部、審判いずれかによって発見されたときは、当該チーム全員を失格とする。
- ①試合中に発見されたときは、その試合を没収試合とする。

- ②試合後に発見されたときは、勝っていた場合も次の試合に進めない。
- ③いずれの場合も前の試合結果には及ばない。

## 6. オーバーエイジ

**参加資格に、オーバーエイジ枠**（以下、OA（1980（昭和55）年4月1日以前に出生した者の参加を一部認める））を設ける。**OAの選手が参加する場合は登録選手のうち5名以内**とする。

## 7. 参加申込

- （1）軟式野球については、種目ごとの最大受け入れ可能チーム数を超える申し込みがあった場合に限り、下記の対応をとり出場チームを決定する。

各都道府県選手団から申し込みのあった序列（第1代表、第2代表、……）の数字が小さいチームから優先的に出場権を獲得する。序列の番号の小さい順に、序列ごとのチーム数を足し合わせる。最大受け入れチーム数を超える序列の番号が存在する場合、当該番号の序列のチーム間で抽選を行い、最大受け入れ可能チーム数以下になるよう調整する。抽選方法については、別途主催者が決定する。なお、抽選を行う序列番号よりも数字の大きな序列番号の参加希望チームについては、大会への出場を見送るものとする。

- （2）締切期日をすぎた後の申込および変更は一切受け付けない。ただし、以下の場合はその限りではない。

- ①本人が病気、けがで入院するなど参加不可能の場合、医師の診断書を、10月14日（金）必着で大会本部に提出すれば参加登録は抹消する。なお、病気、けがなどの理由で参加登録抹消者が発生し、チーム全員の参加が不可能となった場合は、チーム全員の参加登録を取り消す。

- ②団体競技種目で**参加登録抹消者（理由に関わらず）が発生した場合、参加者の入れ替えを認める。**

また、**入れ替え登録は種目別監督会議まで認め、監督会議での報告を義務とする。**入れ替え後の氏名はプログラムには記載されない。なお、書類に不備がある場合は入れ替え登録を認めない。なお、新たに入れ替え登録した参加者の大会参加費及び大会運営費、保険料は発生しないものとし、入れ替える人数より多くの入れ替え登録を行うことはできない。

## 8. 競技方法

- （1）**今大会の競技は（公財）全日本軟式野球連盟現行規則に準じて行う。**

ベンチ入りできるメンバーは監督、コーチ、選手、マネージャー、スコアラー、トレーナー等（有資格者）の他にチーム代表者1名を加えることができる。なお、監督、コーチ、選手以外のユニフォーム着用は認めない。

- （2）ベンチは組み合わせ番号の若い方を一塁側として、先攻・後攻はじゃんけんにて行う。

- （3）**試合は7イニングとし、時間は1時間45分とする。**延長戦は原則として行わず、7回終了時において同点の場合は特別方式を最長2イニングまで行い、それでも同点の場合は抽選によって勝敗を決定する。ただし、決勝戦は7イニングを行い同点の場合は、延長戦は9回までとし、なお同点

の場合は主催者の判断で特別方式を用いる場合もある。特別方式では継続打順で、前回の最終打者を1塁走者、その前の打者を2塁走者とする。すなわち無死1、2塁の状態にして試合を行う。得点の多いチームを勝ちとする。

＜時間制限の解釈について＞（6回表が終了して先攻チームが1点をリードしている場合）

- ・6回裏が始まるときに1時間45分を過ぎていて、攻撃が始まり2点が入った場合はその時点で終了。
- ・6回裏が始まるときに1時間45分以内に攻撃が始まって2点を入れても制限時間内に攻撃が始まったという理由で試合終了にはならない（作為的なタイムを防ぐため）。但し、得点が入らないまま制限時間を過ぎたらその回で終了となる。

（4）コールドゲームについて

得点差によるもの・・・5回以降、7点差とする。ただし、決勝戦には得点差によるコールドゲームを適用しない。

降雨、日没によるもの・・・5回以降審判が中止した時点で正式試合として成立する。

（5）試合はイニングに関わらず、5回以前でも1時間45分経過した場合は、正式試合として成立する。降雨、日没などで、1時間45分未滿で中止となった場合は、翌日継続試合とする。

（6）チームは指名打者（DH）を1名指名することができる。DH制採用の有無はチームの自由とする。

（7）試合前のシートノックについては、時間は5分間を原則として全試合前に実施する。ただし各競技場の状況等によっては省略することがある。

（8）メンバー表は、監督会議において各チームに一冊配付する。当日第1試合のチームは試合開始30分前、第1試合以降のチームは前試合の4回終了時に大会本部に4部、2日目第3試合（準決勝）のメンバー表は、第2試合終了後15分後に提出すること。なお、決勝戦は5部大会本部に提出すること。

（9）試合球は公認M号（ケンコー）を大会本部で用意する。その他の備品は各チームで用意すること。

（10）ユニフォーム（帽子・ストッキングも含む）は原則、チーム全員同色同型とし、野球用スパイクを使用すること。ストレートパンツも着用可能とする。

（11）背番号は、プログラムに登録された0番から99番までとし、監督30番、主将10番とする。登録された背番号は重複しないこと。また、登録された背番号の変更はできない。なお、企業名、大学名の入ったユニフォームでは出場できない。

（12）金属バット、ハイコンバット及び捕手のマスクは、連盟公認（J・S・B・B）のマーク入りのものを使用すること。

（13）打者、次打者、走者及びベースコーチは、S・Gマークのついた連盟公認（J・S・B・B）ヘルメットを着用すること。

（14）捕手は、プロテクター、レガース、マスク（スロートガード付）、捕手用ヘルメット、ファールカップを着用すること。

（15）雨天時の場合の対応は以下の通りとする。

- ①雨天時の対応は、主催者が決定する。但し、主催者判断で監督会議を緊急開催する場合もある。
- ②雨天時には球場を移動するチームが出てくる場合があることを了承すること。
- ③全試合を消化できない場合でも、参加費・大会運営費・保険料は返却しない。

## 9. 表彰

- (1) 表彰は優勝、準優勝、第3位のチームに行う。
- (2) 第3位チームには、日曜日の準決勝が終了後各会場で賞状と第3位盾ならびに登録メンバー全員に銅メダルを授与し、表彰する。
- (3) 準優勝チームには賞状、準優勝楯並びに登録メンバー全員に銀メダルを授与し、表彰する。
- (4) 優勝チームには賞状、優勝旗と優勝カップ並びに登録メンバー全員に金メダルを授与し、表彰する。

## 10. 東日本大震災に伴う参加資格の特例について

震災による被害状況及び影響等を考慮し、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県の6県を本特例の適用対象となる被災地域県（以下、「特例対象県」）とし、前記参加資格を満たした上で、当該被災地域県からの避難等により、2011（平成23）年3月11日以降移動せざるを得なかった場合、避難前に在住していた県から参加することができる。ただしこの場合、2011（平成23）年3月11日時点において、当該特例対象県内に居住していた者であることを当該県選手団長が証明する書類を提出することを条件とする。なお、書式については別途指定する。

## 11. 第69回全国青年大会の延期および開催形態見直しに伴う参加資格の特例について

2020（令和2）年5月～2021（令和3）年9月に予選会を行い、全国青年大会への出場権を得たチームには、出場枠を付与する。なお当年度に限り、2020（令和2）年度および2021（令和3）年度全国青年大会への出場権を有していたチームに関しては出場チーム数の制限に含まない。

## 12. その他

- (1) 原則として基準要項、体育の部要項に定めるところによるが、これらと種目別要項が異なる場合には種目別要項が優先される。
- (2) 参加者は、大会本部または大会本部が指定した旅行業者を通じて宿舍を申し込む。宿舍と、航空券または乗車券等を併せて申し込むことを希望する場合には、大会本部が指定する方法による。
- (3) 監督・コーチ・アシスタントコーチ・マネージャーが2チーム以上を兼務する場合でも支払うチーム参加費に変更は無い。
- (4) 記載のない内容については主催者で判断する。



スポーツ振興基金助成事業

独立行政法人日本スポーツ振興センター